

バイリンガル絵本 The Found Tree に寄せられた感想・メッセージ

市長様 (2026/03/24)

「このたびは、絵本『迷子椎（まいごじい）—三宅島大噴火—』をご寄贈いただき、心温まるご厚意に深く感謝申し上げます

いただいた絵本は〇〇市交流センターに備え、防災意識を啓発する大切な一冊として活用させていただきます・・・」【感謝状より】

「災害の実態に関わらず、復旧・復興に向けた熱い思いも共通するものであり、〇〇市民の防災意識の高揚や児童生徒の防災教育等に資するため。」【寄附採納決定通知書より】

公益財団法人 理事長様 (2025/09/30)

「・・・このたびは、図書「バイリンガル絵本『迷子椎—三宅島大噴火—』」を寄贈いただき、誠にありがとうございました。

当協会では、国際交流の推進や多文化共生の社会づくりに向けて、様々な取組みを展開しておりますが、施設内には図書も整備しており、皆様に貸し出しも行っているところです。

今回寄贈いただきました図書につきましても、多くの皆様にご紹介するなど、有効に活用させていただきたいと思っております。

末筆ながら、貴グループの益々のご活躍並びにご発展を祈念申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。・・・」

高知県在住 (2025/08/03)

「・・・やはり冊子になると見応え、読み応えがありますね。先のカムチャツカ半島地震でも津波が発生しました。災害を想定し、準備をしておかないと、と思いを新たにしました。

当冊子が地域の防災力強化に資すること、期待します。」

東京都在住 (2025/08/01)

「『迷子椎』を拝読しました。噴火や避難の描写からは災害の恐ろしさがしっかりと伝わってきますが、そこに歌や木、人々の絆が重なり、まるでおとぎ話のようなあたたかさを感じました。

中でも、“見つかる木 (The Found Tree)” がずっと島の人たちの帰りを待っていたという描写には、胸がぎゅっとなりました。そして、最後にカオルが叫ぶ「ただいまー」は、すべての想いが込められたひと言でした。希望も、家族も、歌も、自然も、すべてが繋がって生きていく—そんなメッセージが、わかりやすく、深く伝わってきました。

この絵本は、子どもたちに防災の大切さを伝えるだけでなく、「どんなに怖くても、帰れる場所がある」という希望を届けてくれる、すてきな作品だと思います。英語翻訳も、全体的にやさしく丁寧な表現で、子どもたちにも伝わりやすく、好印象でした。」

東京都在住 (2025/07/31)

「・・・完成品を読ませていただきました。私が当初考えていたよりもはるかに素晴らしい出来栄えで感心いたしました。文章の中身といい、絵の完成度の高さといい、また英語の訳の分かりやすさといい、申し分ない仕上がりですね。これなら読む人の年齢や国籍を問わず全ての人に当時の島の人たちの大変な御苦労や災害から立ち直る力強い意思が伝わってきて、大きな感動と共感を呼び起こすことでしょう。

日本人として全ての人にこの本を読んでもらい普段から災害時への備えと、住民と消防を含む公共機関との連携を深める最良の教訓としていただきたいですね。

特にいつ大災害が起こるか分からない現在においては、まさに若い世代への防災意識や知識を高めていくことが何よりも重要なことです。そのためには早くから教育機関において防災教育を積極的に取り入れていくための教材としてこのような絵本を活用していくことが必要だと考えています。」

東京都在住 (2025/07/30)

「・・・本を拝見し、まず最初に目に飛び込んできた絵に心を奪われました。

とても美しい色彩を描かれる画家さんですね！

三宅島噴火当時、避難されてきた方の中に、小学校の先生がいらしたことを覚えています。

その方は近所の〇〇小学校で教鞭をとられていて、カリスマ性のある先生でした。

学校全体がいろいろな意味で活気づいていたのが印象的で、長く勤務されていたことを思い出しました。・・・」

宮城県在住 米国人様 (2025/05/07)

The story is wonderful and I really enjoyed the revision.

宮城県在住 米国人様 (2025/04/24)

My impression of the story was mainly for the natural beauty and love for Miyakejima which the residents held. The love for their island home, family, and community was dominant throughout the story. The Beech tree is a metaphor for their love of the island and how it lasts, enduringly through hardship. The story's reverence for nature and ancestry is a familiar backdrop for stories about Japan. It has a commonality with the 昔話 stories.

The idea that I was reading about disaster prevention didn't enter my mind until I read the profile page at the back of the booklet. Overall, a pleasant read.

・・・・・・以下は、2022年頃、日本文に寄せられた感想など。この時点で、英文や絵はまだ有りません。・・・・・・

「噴火時の様子がよくわかりますね。 とくにご指摘するような箇所は見当たりませんでした。出来上がりを楽しみにしております。」

「読ませていただきましたが、『迷子椎』の記述が少ない気がします。

一点は、この時の大噴火で、何万本もの巨木が枯れました。が、『迷子椎』の付近の巨木は残りました。

そこを強調したらどうですかね。生き残ったのが、不思議です。

この木は樹齢約 300 年近く生きていますので、何かしらの魂が宿っているのかもしれませんが。ただし、満身創痍の木でもあります。多分支えている柱が折れれば倒壊するような現状です。」

「島の歌が入り、島暮らしの情感が伝わっていいですね。島と家族を愛する薫さんを通して、迷ってもあの椎の木があれば帰る場所がわかるという話も、火山噴火の災害の大きさにもあきらめないで、島を愛し続ける人の心に触れた感じがします。朗読としても分かりやすい。でも山腹というのは、ちょっと浮かびにくいのでは？ 山肌やまはだ、と言い換えたほうが伝わりやすいと思います。」

「原稿拝見しました。これはこれで、直さずにそのままいくべきかと思います。

正直、目を通して、ハタと困りました。緑豊かで生まれ育った故郷に愛着を持ち、思いを馳せることは当然と思うのですが、20 年周期で噴火を繰り返す島、いわば危険と隣り合わせの地に執着する思いが、どこからくるのかが、伝わってこないのです。

わが身を振り返りますと、〇〇という地に愛着を持ち、住み続けたい思いはあります。確かに、南海地震・津波に襲われることが分かっていますが、です。それが、何故なのか、私には明確には分かりません。〇〇の人が好き。海、山、川に恵まれ、美味しい食べ物があり、いつでもどこでもアウトドアが楽しめるといったことはあげつらうことができます。地震・津波に本気で備えるなら地盤の強固な高台への移転をすることもできないことはないです。

火山被害が避けられない三宅島では、いざとなれば、島外に避難するしかありません。そこにあえて住む“芯になるようなもの”が表現できたら、いいと思うのですが。どうしたらいいか、私には名案が浮かびません。・・・命のバトンでは命を救う大切さが伝わってきたように思いますが、今回はそういったものを感じませんでした。原稿は描写も適切ですし、問題ないと思います。主題が明確になる工夫ができるのであれば、もっとよくなると思います。」

「先日頂きました防災童話「迷子椎」につきまして、噴火の時系列や島節について確認しましたのでお知らせいたします。噴火や全島避難の時系列は事実に基づいた流れになっておりましたので、問題はありせん。・・・」

「防災絵本の記述について、〇〇課長より指摘がありました。

1 ページ目の 4 行目にある『島の人たちの飲み水にもなっている大路池』とありますが、実際は大路池地下の地下水をくみ上げています。この表記ですと、大路池から直接水を汲んでいるように受け取れてしまうため、別の表現をお願いします。例えば、『伊豆諸島最大の淡水湖である大路池』、『島の鳥たちもあつまる大路池』等。」

「童話「迷子椎—三宅島大噴火—」も読ませていただきました。

先日トンガの噴火もありましたし、被災してしまった人のご苦労を想像しました。

今は無事に暮らしていても、常に自然災害と隣り合わせで暮らしていることを忘れてはいけないなと思いました。特に気になる箇所等はありませんでした。」

「島節や子守歌が物語の中にはいつてくるのがいいなと思った。」

「防災童話の原稿を読みました。刻々と変わる噴火災害の被害について絵で表現すれば、村の人達のつら

さが痛いほど伝わるのでないかと感じました。

自分も危機管理担当の時、富士山噴火の被害想定が現代社会の生活へ与えるダメージが大きいと感じていました。火山灰は、電気を止め、インターネットも遮断します。とても暮らしていきません。災害と隣合わせに暮らしていく人がいることを理解できる作品となればと思いました。」

「ハクサイは夏の野菜ではない【注：日本文から「ハクサイ」を削除】。スギ、ヒノキに加えて、シイも多く白く立ち枯れた【注：日本文に「シイ」を追記】。村の特別養護老人ホームに入っていた老人が全島避難中、多摩地区の施設からいなくなり、竹芝栈橋で見つかった。」